

ブラインドサッカー～その2～

5月19日(金)のブラインドサッカー終了後に感想を書きました。また、22日(月)の1時間目にブラインドサッカーの振り返りをしました。様々なことを体験し、コミュニケーションの大切さや相手に対する思いやりなどを確認できたようです。

前にいる人とぶつからないように腕を前に出しながら歩いています。

アイマスクをしていない人が、ボールのある位置を教えてください！



アイマスクをしている人にボールを渡してもらるように、コミュニケーションをとっています！



ブラインドサッカーを体験して障がい者のイメージは変わりましたか？

- ・障がい者は何でもできない訳ではない。サッカーをすることができる。吉原さんは、サッカーを目が見えている人のようにしていたので、何もできないわけではないと思った。
- ・目が見えなくてできないことも、人とコミュニケーションをとることで、できるようになると思う。これにより、できないことはあまりないと思う。
- ・よしはらさんを見て、目があまり見えなくても、走ったり、ボールを蹴ったりできていて、見えている自分よりも全然上手で、何か一つハンデのようなものがあったとしても、普通の人とあまり変わらないんだなと思った。
- ・障がい者にはできないことがあるかわり、できることもあるので、全部足したら誰でも同じになると思う。今日来て下さった吉原さんは2時間だけだったが、サッカーをしたりしているのを見ても、目が見えないようには見えなかった。そこまでの人は少ないかも知れないが、それでも他人と違うことはないと思う。



ボールを蹴ってコーンに当てることができるか？



ブラインドサッカーを体験してコミュニケーションがどんなふうに変更だと思われましたか？

- ・詳しく伝えることが大切だと思いました。コミュニケーションは自分の意思を伝えるためにとても役に立つものだなと思いました。
- ・目が見えない人にとってコミュニケーションは言葉だけでないと思った。話す人は言葉をもっと詳しく角度や方向など言ってあげるのもいいと思ったし、ボールを置く人は音を出したり、「置くよ」などと声かけも必要とわかった。それに目が見えない人は他の人信じることも大切だと思った。
- ・きちんと声を伝えられていても思った通りに動けなかったりするので、より正確に教えることが大切だと思った。
- ・いつも使っている「そこ」や「あっち」「こっち」「ここだっば！！」といった言葉は視覚障がい者には通じないから、どこに行って、ここに何があるなど詳しく言わないと、通じないことがわかりました。
- ・ブラインドサッカーは、アイマスクをつけてまったく見えない状態でやるので、自分がどこにいてどうすればいいのか分かりません。コミュニケーションをとることで、安心して動くことができると思いました。



ボールを蹴ってコーンに当てられるよう、腕を前に出して方向を確認しています！

「もうちょっと右！」
などと指示をしています！



最後に吉原選手からのお話がありました！

代表して、進藤さんがお礼の言葉を言いました！

